



『竹取物語』「富士山の名の由来」(文法)

次の古文を読んで、後の問に答えよ。

中将、人々引き①ぐして帰りAまゐりて、かぐや姫を、②え戦ひ止めずなりぬる事、こまごまとB奏す。薬の壺に御文そへ、まゐらす。ひろげて御覽じて、いといたく③あはれがらせ給ひて、物もきこしめさず。御遊びなども④なかりけり。大臣、上達部を召して、「いづれの山か天に近き」と問はせ給ふに、ある人奏す。「駿河の国にある⑤なる山⑥なん、この都も近く、天も近く侍る」と奏す。これを聞かせ給ひて、

逢ふことも 涙にうかぶ我身には 死な⑦ぬくすりも何にかはせ⑧む

かの奉る不死の薬に、又、壺ぐして、御使ひにCたまはず。勅使には、つきのいはかさといふ人をD召して、駿河の国にあなる山の頂にもてつくべきよしE仰せ給ふ。嶺にてすべきやう教へ⑩させ給ふ。御文、不死の薬の壺ならべて、火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。そのよしうけたまはりて、つはものどもあまたぐして山へ登りけるよりなん、その山をふじの山とは名づけける。その煙いまだ雲のなかへたち上ると⑪ぞ言ひ伝へたる。

問一 傍線部①の活用 of 行・種類と活用形を、傍線部④の活用 of 種類と活用形を答えなさい。

問二 傍線部②「えくず」の文法的意味を答えなさい。

問三 傍線部③の主語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 中将 イ 人々 ウ 大臣 エ 上達部 オ 帝

問四 傍線部⑤・⑦・⑧・⑨・⑩の助動詞の文法的意味を答えなさい。

問五 傍線部⑥・⑪の結びの語を一語で答えなさい。

問六 傍線部A～Eの敬語は誰から誰への敬意か。適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 中将 イ 人々 ウ 大臣 エ 上達部 オ 帝 カ 作者

【解答欄】

問一 ① (サ行変格活用)・(連用)形 ② (ク活用)・(連用)形

問二 (不可能) 問三 (オ)

問四 ⑤ (伝聞) ⑦ (打消) ⑧ (推量) ⑨ (伝聞)

⑩ (尊敬)

問五 ⑥ (侍る) ⑪ (たる)

問六 A (カ) ↓ (オ) B (カ) ↓ (オ) C (カ) ↓ (オ)

D (カ) ↓ (オ) E (カ) ↓ (オ)

☆ちよこつと解説

問一 用言の復習です。「具す」は「漢字一字」+「す」なので、サ変です。

問二 呼応の副詞（陳述の副詞）と呼ばれる表現です。

問三 傍線部の下に「せ給ふ」という二重尊敬があること、傍線部Bで「奏す」とあることから、本文には直接書かれていませんが、「帝」がいるということがわかります。

問四 助動詞の問題です。

問五 係り結びの法則です。

問六 この本文を読むと、敬意が払われているのは全て帝です。また今回の問題は全て「地の文」に傍線を引いたので、「作者から帝」の構図が出来上がっています。